

令和5年度 井上綾乃保育ゼミ通信 3

令和5年10月31日
和光市 保育センター

9月11日に行われた、第3回 井上綾乃保育ゼミは「保護者の状態から考える保護者支援」をテーマとした内容でした。保護者支援における保育士の姿勢を学ぶことができました。

保護者の障害受容の段階に合わせた支援を

保護者は障害と向き合えるようになるまでに、様々な感情が渦巻く。保育者は保護者の状態に合わせた傾聴、伝え方で信頼関係を保つ。保護者を尊重し、共に歩む態度を忘れず、保護者自身が障害受容に向かえるようにする。

子の支援は保育園の中で行う。家庭には、保護者の状態に合わせて、がんばりすぎずにできる事を伝える。

保護者の混乱期、否認期には保護者と子の課題を分離しペアレントファーストで支援を。

保護者は子どもの一番身近なサポーター
保育者は保護者の伴走者



その子を見守り、支援を考えていくのは保護者。保育者がその子に関われるのは、一生のうちの一瞬のみ。保育者は、保護者に寄り添い、保護者が力をつけ、親子で自分らしく生活できるよう応援する。

目に見えない障害は環境や保護者の価値観により、困り感が異なる

保護者

他児との発達の違いを比べる機会がなく、障害に気付くことが難しい。

保育者

保育者は発達の知識があり、集団の中で他児との発達の違いを比べられる。

保護者

障害を受け入れる事はネガティブを受容する事。いつまで続くか分からず不安。

だから

保育者

保護者が発達の見通しが持て、安心できるように、子どもの行動の理由を通訳する。



お友達の持っているものを取ってしまうんです…いつになったら待てるようになるんだろうなあ。

保護者は飛び級を求めている時がある

待つ
大人と待てる
数秒待てる
かしてという
欲しい時に取る

発達の段階を知らせ
スモールステップで
目標を伝えると良い!

支援するには信頼関係がある事が大前提

「みかん・ほかん」を意識しよう

みとめる 共感 ほめる 感謝

傾聴のコツ

ペーシング…声のトーン、姿勢等を相手に合わせ「似ている」と思わせ心を開く状態につなげる
バックトラック…キーワードを復唱し、承認されていると感じてもらおう
キャリブレーション…表出されている情報から心の状態を探り、寄り添う

伝え方のコツ

ポジ3 ネガ1…ネガティブな情報を1つ伝えるときには、ポジティブな情報も3つ伝える

サンドイッチ法…①できる事→②できない事→③配慮すればできる事の順で伝える。